

さんがせ
三ヶ所遺跡

所在地 日進市浅田町地内
調査理由 県道岩崎名古屋線建設
調査期間 平成 15 年 2 月
調査面積 370 m²
担当者 藤岡幹根・永井宏幸・鵜飼雅弘



調査地点 (1/2.5 万「平針」)

調査の経過 調査は県道岩崎名古屋線建設に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より委託を受けて、平成 15 年 2 月に実施した。調査面積は 370 m²である。昨年度の調査では、平安時代中期から中世初頭にかけての溝・土坑を検出した。

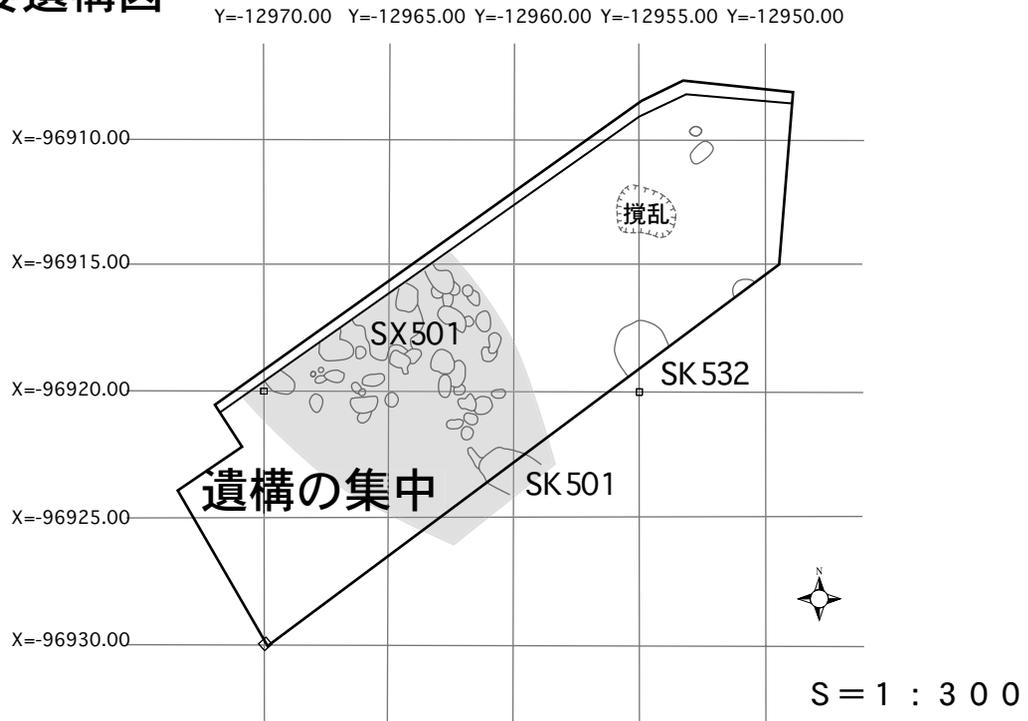
立地と環境 三ヶ所遺跡は日進市の西部、浅田町地内に所在する。遺跡は岩崎川・天白川・折戸川の合流地点よりやや下手に位置し、これらの河川によって開削された浅い谷に立地する。調査地点の周辺は水田が卓越する地帯である。現地標高は約 28.0m を測る。

調査の概要 基本層序は現水田耕作土約 0.2m、旧耕作土約 0.1m の下に明黄褐色砂質シルトが約 0.15m 前後堆積するが、調査区西端では旧耕作土直下に基盤層が乗り、削平を受けているものと思われる。この直下に山茶椀・灰釉陶器・須恵器などの遺物を包含する灰白色砂質シルトが堆積する。また調査区中ほどから東側にかけてほぼ南北方向に緩やかに落ち込み、褐色砂質土が約 0.1 ～ 0.15m 堆積する。基盤層は明黄褐色砂質土で、その下層に円・角礫を多く含む明黄褐色砂質土が堆積する。

今回確認された遺構は、平安時代中期を中心に土坑 40 余基、不定型の掘り込み 1 基であり、調査区やや西よりに集中していた。このうち SK501 は下層に炭化物を多く含み、上層の褐灰砂質シルト層からは須恵器甕、甔、灰釉椀など遺物がややまとまって出土した。また SX501 は、昨年度調査地点の掘り込みと同時期のものと考えられる。出土遺物は須恵器・灰釉陶器・山茶椀などである。

(鵜飼雅弘)

主要遺構図



遺構検出状況



SK501 出土状況



SX501 完掘状況



遺構掘削風景